

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：14201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16721

研究課題名(和文) 漢魏六朝から中唐の「隠逸空間」の研究 園林・山林・居

研究課題名(英文) The study of place of seclusion from the Six Dynasties to the Middle Tang dynasty :gardens, mountains and forests, dwellings

研究代表者

二宮 美那子(NINOMIYA, Minako)

滋賀大学・教育学部・准教授

研究者番号：40738895

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、中国の漢魏六朝から中唐における「隠逸空間」をめぐる文学的表現について考察した。

南朝梁・西魏・北周に仕えたユン信は、北朝に移り間もない時期に、隠逸の住まいを描く「小園賦」を作った。先行する潘岳・陶淵明・謝靈運・沈約らの作品と比較すると、「小園賦」が描く空間は際だって閉鎖的であり、外部から孤立している。地縁・血縁から切り離されたユン信の特異な状況が、このような隠逸空間の造形に深く関わっている。中唐の詩人白居易は、ユン信と同様閉鎖的な「小空間」を築いた。両者を比較すると、隠逸空間をどのような理念によって支えるかという点で、時代による大きな差違を見出すことができる。

研究成果の概要(英文)：In this study, I considered literary expression in relation to descriptions of a "place of seclusion" from the Six Dynasties to the Middle Tang dynasty.

Yu Xin(ユン信), who served both the Southern and Northern dynasties, made a "Xiao-yuan fu (小園賦)," which depicted a dwelling of seclusion in the early days of his transition to North. Compared to the works of preceding Pan Yue (潘岳), Tao Yuanming (陶淵明), Xie Lingyun (謝靈運), Shen Yue (沈約) and others, the space that is illustrated in "Xiao-yuan fu" is distinctly closed and isolated from the outside. The specific situation of Yu Xin, separated by kinship and territorial bonding, acutely affects the creation of such a place of seclusion. In addition to Yu Xin, Bai Juyi (白居易), the poet of middle-Tang age, also built a closed "small space." By comparing the two, we can observe a significant difference related to their time of origin in terms of what philosophy supports the place of seclusion.

研究分野：中国古典文学

キーワード：隠逸 園林 ユン信 小園賦

1. 研究開始当初の背景

(1) 報告者はこれまで、唐代、とくに中唐を中心に、文学作品における「園林・居宅」をめぐる表現について考察してきた。唐代の士大夫たちは、仕官と隠逸という二つの極を、時に往来しながら創作を行った。私的な時間を過ごす園林や居宅は、創作の場として、また題材として、重要な役割を果たしてきた。本研究では、これらの研究の延長として文学における「個人空間」に着目し、従来の隠逸文学とは異なる視点・枠組みの獲得を目指した。また、これまでの研究の蓄積をふまえた上で、唐代以前の「個人空間」のありようを探ることで、より広く通史的な視点で文学の流れを捉え直すことを目標とした。

(2) 園林・居宅などの文学を中心に据えたまとまった研究は、国内では未だ見られない。一方中国・台湾では、王毅『園林与中国文化』(上海人民出版社、1990)が園林の文学を中国思想史と結びつけて通史的に論じる、代表的な業績である。唐代に関しては侯迺慧『詩情与幽境：唐代文人的園林生活』(台北：東大圖書股份有限公司、1991) また李浩の一連の研究(『唐代園林別業考論(修訂版)』(西北大学出版社、1996)、『唐代園林別業考録』(上海古籍出版社、2005)があり、資料の整備が進められている。これらの先行する研究は、基礎的資料として参照すべきものである。ただ、こうした研究は結果として「物としての園林」が帰着点となっており、本研究が重視する、物と言葉との関係に対する意識は希薄であると言わねばならない。本研究は、文学作品を中心に据え、「個人空間」のあり方を、作品の精読を通して解明することを目指した。

2. 研究の目的

(1) 漢魏六朝から中唐文学に至るまでの個人空間の生成・継承・発展について考察する。報告者はこれまで、中唐を中心に園林文学の

様相を解明してきた。本研究では、この成果をふまえた上で時代を遡って研究範囲を広げ、より通史的な視点を獲得することを目指した。

その具体的なテーマとして、園林の「小空間」化や「居」の文学の系譜を探ることが挙げられる。詩人が個人空間をいかに描いたか、また個人空間でどのような創作活動を行ったかを探ることは、その時代の詩人(士大夫)の思想・文化を探ることにつながる。本研究の成果は、隠逸・山水文学研究に寄与するであろうし、中国古典園林史研究にも一定の貢献が見込まれると考える。

3. 研究の方法

電子テキストも含めた資料(テキスト・用例・先行研究)の収集を行いながら、作品の精読を基礎において進めた。本研究は、報告者がこれまで進めてきた研究テーマを、時代を遡り通史的視点の獲得を目的に行うものであり、研究手法・資料読解においては、既に一定の蓄積がある。具体的には以下の研究を行った。

(1) 六朝期の詩人・ユ信の「小園賦」を起点とした、園林の小空間の考察。作品の初歩的な考察は既に終えているため、その他の小空間を描いた作品の読解を通して、「小園賦」の特徴を探った。『芸文類聚』巻六十四・居所部・室に収められる西晋・潘岳やユ闡の「狭室賦」は、「小さな・狭い」空間を文学の題材として取り上げたものである。これらの作品や、「一枝」(『莊子』逍遙游)・「一丘一壑」(『漢書』)・「一室」など、隠逸文学に見られる「小ささ」「狭さ」を示すキーワードを設定し、得られた用例を検討した。

(2) ユ信以前の「居」の文学の考察。ユ信「小園賦」をより深く理解するためには、隠者の暮らしやすまい(「居」)を描いた先行する賦である潘岳「閑居賦」・謝靈運「山居

賦」・沈約「郊居賦」などとの比較が有効であると考えられる。「小園賦」中には潘岳「閑居賦」を意識した表現も複数見られ、ユ信はこれらの作品を意識した上で、自身の居住空間に「小園」の名を冠したと考えられる。「居」を描いた文学と「小園」の文学とを比較することにより、それぞれの特徴を探った。

4. 研究成果

(1) ユ信「小園賦」の分析と、「小園賦」を先行する作品と比較することにより、以下の成果が得られた。

ユ信「小園賦」は、南朝出身の文人ユ信が、北朝(西魏)に移ったばかりの時期に作られた。当時ユ信は、西魏への出仕をめぐる煩悶の中にいたと考えられ、「小さな園」での生活を描くことは、政治への参与を放棄した隠逸者としての自らを描く、一種の擬態の試みであったとも解釈できる。

この「小園賦」を隠逸の場を描く作品である「居」賦と比較した。一般に隠逸の場を描く文学が、自得や安定を志向するのとは異なり、「小園」は自然の秩序が乱れた不吉な空間、自然に圧倒された貧しいすまいとして描かれていることが、その特徴の一つとして指摘できる。

また、「小園賦」には、「居」賦が非常に重視して描いた「隠逸の場をいかに定めたか」「なぜ自身がこの場所に至ったか」が全く描かれていない。「居」賦を見ると、隠逸を描く際、その前段階として個人の歴史を語ることを重視していたことが分かる。謝靈運「山居賦」では隠逸の地を祖父ゆかりの地に定めたこと、また沈約「郊居賦」では一族の歴史、王朝の歴史を語る中で隠逸に至る経緯が説かれる。官から隠へという生き方の転換と覚悟を示す「居」賦においては、いわば「もう一つのアイデンティティ」を獲得するために、表現を尽くす必要があったのだ。一方の「小園」には、これらの要素が欠落している。このことから、小園には、いわばその存在を

「外」から支える要素が欠けていることを示している。南朝から切り離されたユ信の特殊な環境がこのような欠落の原因であると考えられ、またこのことが、「小園」の孤立を一層際立たせている。

「小園賦」に自らの来し方を描く表現全く存在しないわけではない。しかしそれは、作品末尾におかれ、直接的に現在の隠逸と結びつけられてはいない。ユ信が「小園賦」において過去の栄光や王朝の滅亡を描く背景には、先行する「居」賦の影響を受け、自らの物語を語ろうとする意識があったのではない。小園に至った「自らの物語」を、いわば断片的に語ろうとする作品からは、地縁・血縁から切り離された場所で生きるユ信の苦悩が伝わってくる。

中唐の白居易も、自身の隠逸(「中隠」)の場を、「閉ざされた小空間」として描いた。六朝士大夫の隠逸空間から見ると、中唐の白居易が「心身の充足」を条件として隠逸空間を描くのは、隠逸における大きな変化であったことが、改めて理解される。

(2) 「小空間」を描いた漢魏六朝の作品を収集し、読解した。「小空間」を主題とする賦として、『藝文類聚』巻六十四・室に西晋の潘岳・ユ闡の「狭室賦」の断片が収められ、また南朝陳・蔡凝には「小室賦」なる作品があった。蔡凝の作品は今佚して見られない。潘岳「狭室賦」は外界の暑さ・猛雨に翻弄される貧しい空間を描き、ユ闡「狭室賦」は清貧を是とする前提に疑義を唱え、猛暑にも涼を保つ居室の様子を描く。このような作品からは、六朝期には「狭小な」居所を描くというテーマがある程度確立されていたことを示唆する。しかし、残された作品が断片であり詳しい分析は難しく、またこれらの作品にユ信「小園賦」に連なる要素は少ないと考えられる。

5．主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)
二宮美那子、閉ざされた小空間 ヌ信「小園賦」論、中國文學報、査読有り、九十冊、2018
(掲載予定)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

二宮 美那子 (NINOMIYA, Minako)
滋賀大学・教育学部・准教授
研究者番号：40738895

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()